

西日本のタンポポとその分布

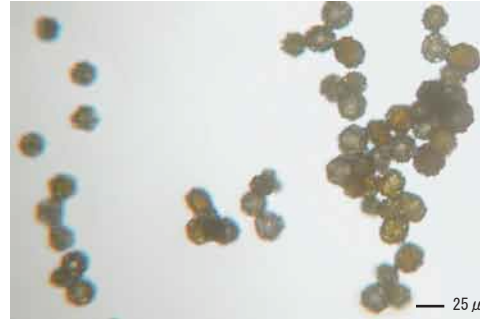
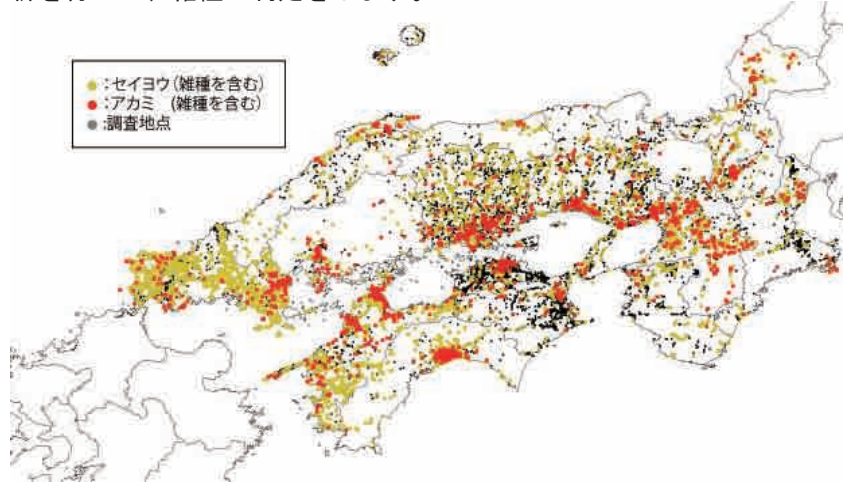
外来のタンポポ

—セイヨウタンポポ・アカミタンポポとその雑種

特徴：!①総苞外片は下向き ②花粉の大きさと形はバラバラ

まちなかでふつうに見られるタンポポの多くは、外来のタンポポといわれています。総苞外片が大きく反り返るのが特徴です。タネの色で、セイヨウタンポポとアカミタンポポに区別します。

日本のタンポポとの中の雑種が知られており、総苞がやや下に反ったり、横を向いているものは雑種かもしれません。本調査では、セイヨウあるいはアカミとしてあつかって、一部についてはDNA解析を行って、雑種の判定をします。



セイヨウタンポポの花粉
よく見ると大きさがふぞろい。



セイヨウタンポポ 雑種タンポポ?
外片があまり反っていない株は雑種かも。

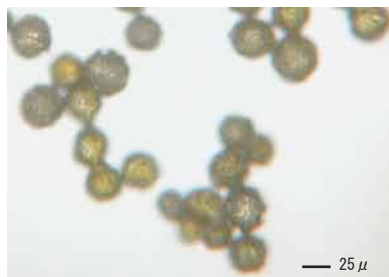


セイヨウ (左) とアカミ (右) のタネ

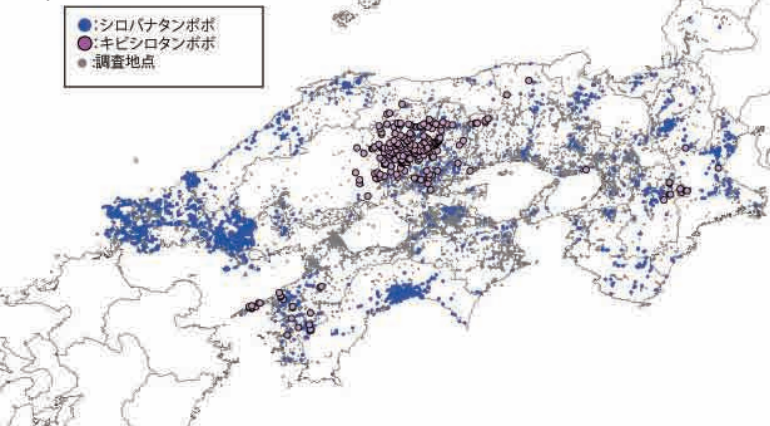
白花のタンポポ

—シロバナタンポポ・キビシロタンポポなど

特徴：!①花びらは白 ②総苞外片は上向き
!③花粉は大きく、形はバラバラ



シロバナタンポポの花粉
50 μ以上の大きい花粉が多い



白花のタンポポ（シロバナ、キビシロ）は花の色、総苞外片の向き、角状突起、タネの色で区別できます。キビシロは外片に毛が多く、へりが赤くなる傾向があります。

九州ではより角状突起が大きいツクシシロタンポポがあるかもしれません。



キビシロ (左) とシロバナ (右)

シロバナは西日本では広く分布します。キビシロは原産地の岡山を中心に、四国西部、近畿北中部でも確認されています。



キビシロ (左) とシロバナ (右) のタネ
シロバナのタネは茶褐色ですが、キビシロは黒褐色です。

在来の黄花二倍体タンポポ

—カンサイ・トウカイ・セイタカ・オキなど

特徴：!①総苞外片は上向き ②花粉の大きさと形は均一!

田んぼや畑、草地などに生えていることが多い種類です。染色体の数から二倍体で、正常な花粉が昆虫に運ばれることで、種子がつくられます。カンサイ、トウカイなどに分けられますが、中間的な形もあります。

今回の調査では、カンサイ、トウカイ、セイタカ、オキの4種類をあつかっていますが、正体が分からないタンポポも見つかっています。



カンサイタンポポの花粉
直径が25 μくらいでそろっている。



角状突起はないか1mm程度
外片の長さは全体の1/2以下

カンサイタンポポ

西日本に多い在来のタンポポ、頭花の直径は2 cm程度と小さいことが多い。



外片の長さは全体の2/3以上
角状突起は2mm以上

トウカイタンポポ

東海地方に多く、総苞外片が長く、角状突起も長い。三重・滋賀などに分布。



角状突起は1mm程度
外片の長さは全体の1/2前後で、幅はやや広い。

セイタカタンポポ

カンサイとシナノの中間の形で、総苞外片がやや広い。滋賀・福井に分布。



外片の長さは全体の2/3以上
角状突起はないか1mm程度

オキタンポポ

島根県隠岐諸島にだけ分布。



オオズタンポポ (仮称)

愛媛県西部に分布。トウカイに似るが正体はわかっていない。



角状突起はないか1mm程度
外片の長さは全体の2/3にもなり、幅は広い。

シナノタンポポ

やや大きい頭花で、外片の幅が広いのが特徴。長野県など本州中部に分布。西日本にも生育しているかもしれない。

